



船舶事故分析集

貨物船・タンカーの

居眠りによる船舶事故の防止に向けて

1. はじめに	1
2. 居眠りによる事故の発生状況	2
3. 居眠りによる事故の事例	6
コラム「不注意は原因ではなく結果：慢性的な寝不足状況では居眠りは防げない！」	8
4. まとめ	10

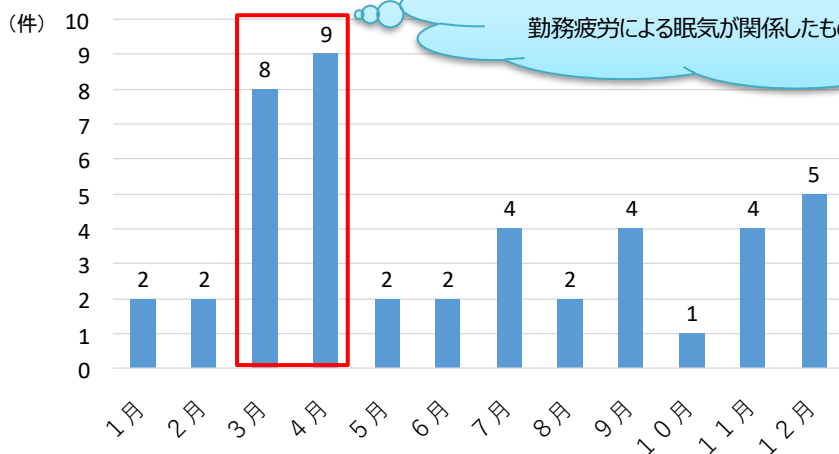
1. はじめに

3月と4月の発生で約4割を占める

見張りがおろそかになる居眠り運航は、直ちに、乗揚や衝突といった危険な船舶事故につながる可能性が高く、ひとたび事故が発生した場合には、貨物船やタンカーからの油の流出等により沿岸域へ被害を及ぼすような重大な事故に発展する可能性があります。

平成30(2018)年1月から令和4(2022)年12月までの5年間に運輸安全委員会が事故調査報告書を公表した事故のうち、貨物船及びタンカーの操船者による居眠りを要因とする船舶事故は45件(対象船舶45隻)で、発生月別にみると、4月が9件(20%)と最も多く、次いで3月が8件(18%)であり、両月だけで約4割を占めています。(図1参照)

そこで、本ダイジェストでは、春先に多発する貨物船及びタンカーの居眠りによる船舶事故の防止に向けて、45件(45隻)の発生状況と事故事例とともに、事故防止に向けたポイントについてとりまとめました。



季節の変わり目で疲れが溜まりやすい時期。
勤務疲労による眠気が関係したのも目立ちます。



図1 発生月別の状況